

# 2019 年度第 2 回研究例会

2019 年 7 月 10 日（水）16:20~17:50, 於 社会福祉学部棟 301 講義室

## <第 1 報告>

報告者：細越久美子准教授

題名：「バンクーバー研修生活における発見と葛藤（2018 年度サバティカル研修報告）」

【要旨】 本報告では、2018 年 4 月から一年間、サバティカル研修としてカナダのブリティッシュコロンビア大学に滞在した経験について報告した。現地において、大学院の授業や研究プロジェクトへの参加、各種の移民支援団体等の訪問、小中学校や地域住民との交流などを通じ、あらゆる場面において言語や文化が異なることを前提とした対応・支援の仕組みがあることがわかった。また、人の流動性の高さから対人関係が広く軽いこと、IT の浸透が多言語対応の一助となっていること、同民族ネットワークでのサポートや自文化の保持が期待されていることなど、多くのことを学んだ。そして何より、自由と自己責任の考え方が根本的に異なっていることに気づかされた。研究の方向性を考える上で多くの示唆を得ることができ、加えて自身のライフスタイルを見直すきっかけにもなり、今回の滞在が人生の一つの大きな転機となると考えている。



## <第 2 報告>

報告者：日野原由未講師

題名：「イギリスの社会サービスにおける外国人材の受け入れ——Brexit 決定後の動向を踏まえて」

【要旨】 本報告では、医療・福祉部門のサービス供給における外国人材の受け入れについて、先進事例としてイギリスの動向からその意義と課題を明らかにしたうえで、イギリスの EU からの離脱、すなわち Brexit の決定後に、イギリスの人材調達の拠点としての英連邦 (Commonwealth) と EU の位置づけに見られる変化を考察した。

高齢化率の上昇に伴う増大するサービス需要への対応と、サービス利用者の人種的、民族的な多様化への対応という点で、外国人材の受け入れは大きな役割を果たしていることを明らかにした。他方で、EU 加盟国を含めた諸外国から外国人材を受け入れていることから、Brexit の決定以降、外国人材の安定的な受け入れが困難な状況にあることを指摘した。こうしたなかで、国内における人材育成の強化や、EU に頼らない人材確保の道が求められていることを考察した。

